

Chapter 20 財務会計は忘れちゃいけないお金の話

20-1 費用と利益

問 1 損益計算資料から求められる損益分岐点売上高は、何百万円か。

〔損益計算資料〕		単位 百万円
売上高		500
材料費（変動費）		200
外注費（変動費）		100
製造固定費		100
総利益		100
販売固定費		80
利益		20

ア 225 イ 300 ウ 450 エ 480

問 2 今年度の事業損益実績は表のとおりである。来年度の営業利益目標を240百万円としたとき、来年度の目標売上高は何百万円か。ここで、来年度の変動費率は今年度と同じであり、製造固定費と販売固定費は今年度に比べそれぞれ80百万円、20百万円の増加を見込む。

〔今年度の事業損益実績〕 単位 百万円

売上高	1,600
材料費（変動費）	720
外注費（変動費）	240
製造固定費	380
粗利益	260
販売固定費	100
営業利益	160

ア 1,750 イ 1,780 ウ 1,800 エ 2,050

問 3 平成27年4月に30万円で購入したPCを3年後に1万円で売却するとき、固定資産売却損は何万円か。ここで、耐用年数は4年、減価償却は定額法、定額法の償却率は0.250、残存価額は0円とする。

ア 6.0 イ 6.5 ウ 7.0 エ 7.5

問 4 表は、ある企業の損益計算書である。損益分岐点は何百万円か。

単位 百万円		
項 目	内 訳	金 額
売上高		7 0 0
売上原価	変動費 1 0 0	
	固定費 2 0 0	3 0 0
売上総利益		4 0 0
販売費・一般管理費	変動費 4 0	
	固定費 3 0 0	3 4 0
税引前利益		6 0

- ア 2 5 0 イ 4 9 0 ウ 5 0 0 エ 6 2 5

問 5 製品 X 及び Y を生産するために 2 種類の原料 A, B が必要である。製品 1 個の生産に必要な原料の量と調達可能量は表に示すとおりである。製品 X と Y の 1 個当たりの販売利益が、それぞれ 1 0 0 円, 1 5 0 円であるとき、最大利益は何円か。

原料	製品 X の 1 個 当たりの必要量	製品 Y の 1 個 当たりの必要量	調達可能量
A	2	1	100
B	1	2	80

- ア 5,000 イ 6,000 ウ 7,000 エ 8,000

問 6 損益分岐点分析で A 社と B 社を比較した記述のうち、適切なものはどれか。

単位 万円		
	A 社	B 社
売上高	2,000	2,000
変動費	800	1,400
固定費	900	300
営業利益	300	300

- ア 安全余裕率は B 社の方が高い。
 イ 売上高が両社とも 3,000 万円である場合、営業利益は B 社の方が高い。
 ウ 限界利益率は B 社の方が高い。
 エ 損益分岐点売上高は B 社の方が高い。

問 7 平成 19 年 4 月に 20 万円で購入した PC を 3 年後に 1 万円で売却するとき、固定資産売却損は何万円か。ここで、耐用年数は 4 年、減価償却は定額法、定額法の償却率は 0.250、残存価格は 0 円とする。

- ア 4.0 イ 4.5 ウ 5.0 エ 5.5

20-2 在庫の管理

問 1 前期繰越及び期中の仕入と売上は表のとおりであった。期末日である 3 月 3 1 日に先入先出法によって棚卸資産を評価した場合、在庫の評価額は何円か。

仕 入			売 上	
日付	数量 (個)	単価 (円)	日付	数量 (個)
前期繰越	10	100	4月20日	4
5月 1日	15	90	8月31日	8
10月15日	5	70	11月20日	6

- ア 840 イ 980 ウ 1,038 エ 1,080

問 2 商品 A の当月分の全ての受払いを表に記載した。商品 A を先入先出法で評価した場合、当月末の在庫の評価額は何円か。

日付	摘要	受払個数		単価 (円)
		受入	払出	
1	前月繰越	10		100
4	仕入	40		120
5	売上		30	
7	仕入	30		130
10	仕入	10		110
30	売上		30	

- ア 3,300 イ 3,600 ウ 3,660 エ 3,700

問 3 部品の受払記録が表のように示される場合、先入先出法を採用したときの 4 月 1 0 日の払出単価は何円か。

取引日	取引内容	数量 (個)	単価 (円)	金額 (円)
4 月 1 日	前月繰越	2,000	100	200,000
4 月 5 日	購入	3,000	130	390,000
4 月 10 日	払出	3,000		

- ア 100 イ 110 ウ 115 エ 118

20-3 財務諸表は企業のフトコロ具合を示す

問 1 財務諸表のうち、"営業活動", "投資活動", "財務活動"の三つの活動区分に分けて表すものはどれか。

- ア キャッシュフロー計算書 イ 損益計算書
ウ 貸借対照表 エ 有価証券報告書

問 2 貸借対照表を説明したものはどれか。

- ア 一定期間における、現金・預金の収入・支出を示したもの
- イ 一定期間における、資金の調達と運用を示したもの
- ウ 会計期間に属するすべての収益と費用を記載し、算出した利益を示したもの
- エ 会計期間の期末日時点での財政状態を示したもの

問 3 貸借対照表の純資産の部に表示される項目はどれか。

- ア 売掛金
- イ 資本金
- ウ 社債
- エ 投資有価証券

問 4 I T投資効果の評価に用いられる手法のうち、ROIによるものはどれか。

- ア 一定期間のキャッシュフローを、時間的变化に割引率を設定して現在価値に換算した上で、キャッシュフローの合計値を求め、その大小で評価する。
- イ キャッシュフロー上で初年度の投資によるキャッシュアウトフローが何年後に回収できるかによって評価する。
- ウ 金銭価値の時間的变化を考慮して、現在価値に換算されたキャッシュフローの一定期間の合計値がゼロとなるような割引率を求め、その大小で評価する。
- エ 投資額を分母に、投資による収益を分子とした比率を算出し、投資に値するかどうかを評価する。

問 5 図の損益計算書における経常利益は何百万円か。ここで、枠内の数値は明示していない。

単位 百万円	
損益計算書	
I. 売上高	1,585
II. 売上原価	951
	<input type="text"/>
III. 販売費及び一般管理費	160
	<input type="text"/>
IV. 営業外収益	80
V. 営業外費用	120
	<input type="text"/>
VI. 特別利益	5
VII. 特別損失	15
	<input type="text"/>

- ア 424
- イ 434
- ウ 474
- エ 634

問 6 売上総利益の計算式はどれか。

- ア 売上高 − 売上原価
- イ 売上高 − 売上原価 − 販売費及び一般管理費
- ウ 売上高 − 売上原価 − 販売費及び一般管理費 + 営業外損益
- エ 売上高 − 売上原価 − 販売費及び一般管理費 + 営業外損益 + 特別損益

問 7 減価償却の方法として認められているものはどれか。

- ア 移動平均法
- イ 最終取得原価法
- ウ 定率法
- エ 持分法

問 8 期首商品棚卸高 20 百万円、当期商品仕入高 100 百万円、期末商品棚卸高 30 百万円のと看、当期の売上原価は何百万円か。

- ア 50
- イ 70
- ウ 90
- エ 110

問 9 売上高が 100 百万円のと看、変動費が 60 百万円、固定費が 30 百万円掛かる。変動費率、固定費は変わらないものとして、目標利益 18 百万円を達成するのに必要な売上高は何百万円か。

- ア 108
- イ 120
- ウ 156
- エ 180

問 10 事業年度初日の平成 21 年 4 月 1 日に、事務所用のエアコンを 100 万円で購入した。平成 23 年 3 月 31 日現在の帳簿価額は何円か。ここで、耐用年数は 6 年、減価償却は定額法、定額法の償却率は 0.167、残存価額は 0 円とする。

- ア 332,000
- イ 499,000
- ウ 666,000
- エ 833,000

問 11 キャッシュフロー計算書において、営業活動によるキャッシュフローに該当するものはどれか。

- ア 株式の発行による収入
- イ 商品の仕入れによる支出
- ウ 短期借入金の返済による支出
- エ 有形固定資産の売却による収入